



2013/12/9

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

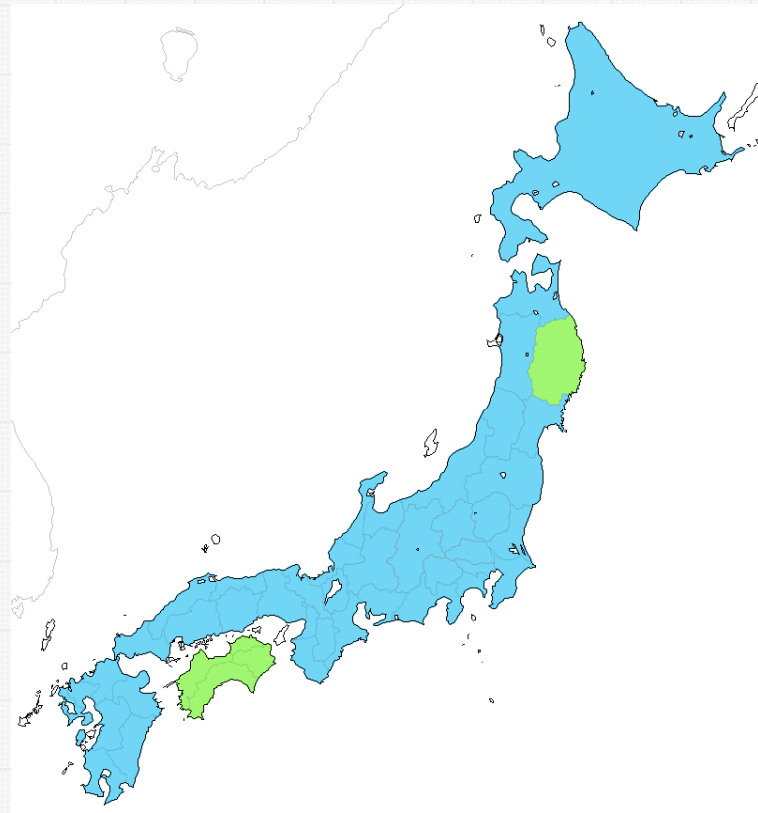
第1回緩和ケア部会

緩和ケア研修会-岩手県の取り組み-

岩手医科大学 外科学講座 緩和ケアチーム

木村祐輔

岩手県のご紹介



岩手県の面積 : 15,278 km²
四国の面積 : 18,803 km²
東京、神奈川 : 13,554 km²
千葉、埼玉

180 km

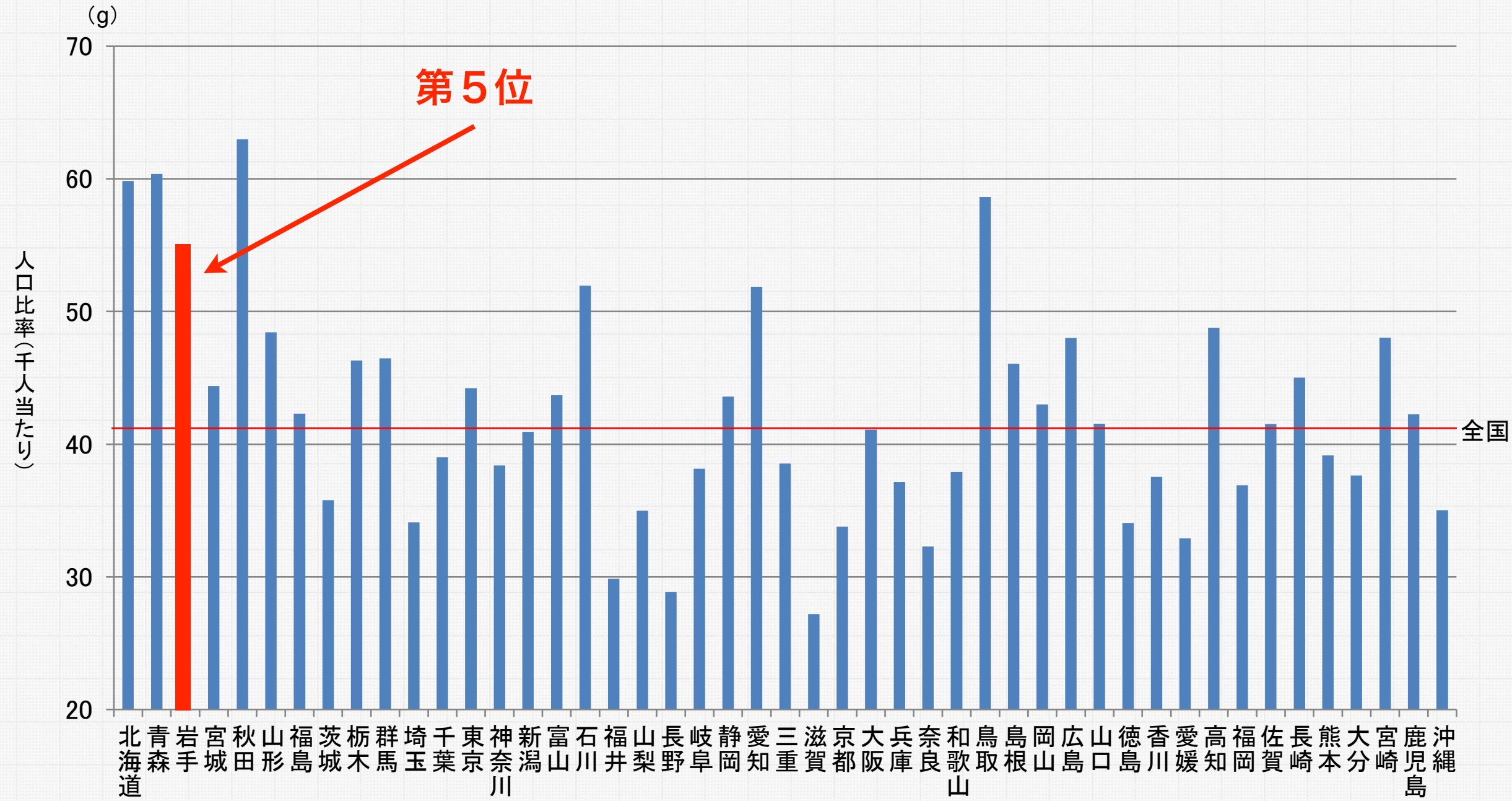


100 km

※ (平成25年1月)
※※ (平成22年)

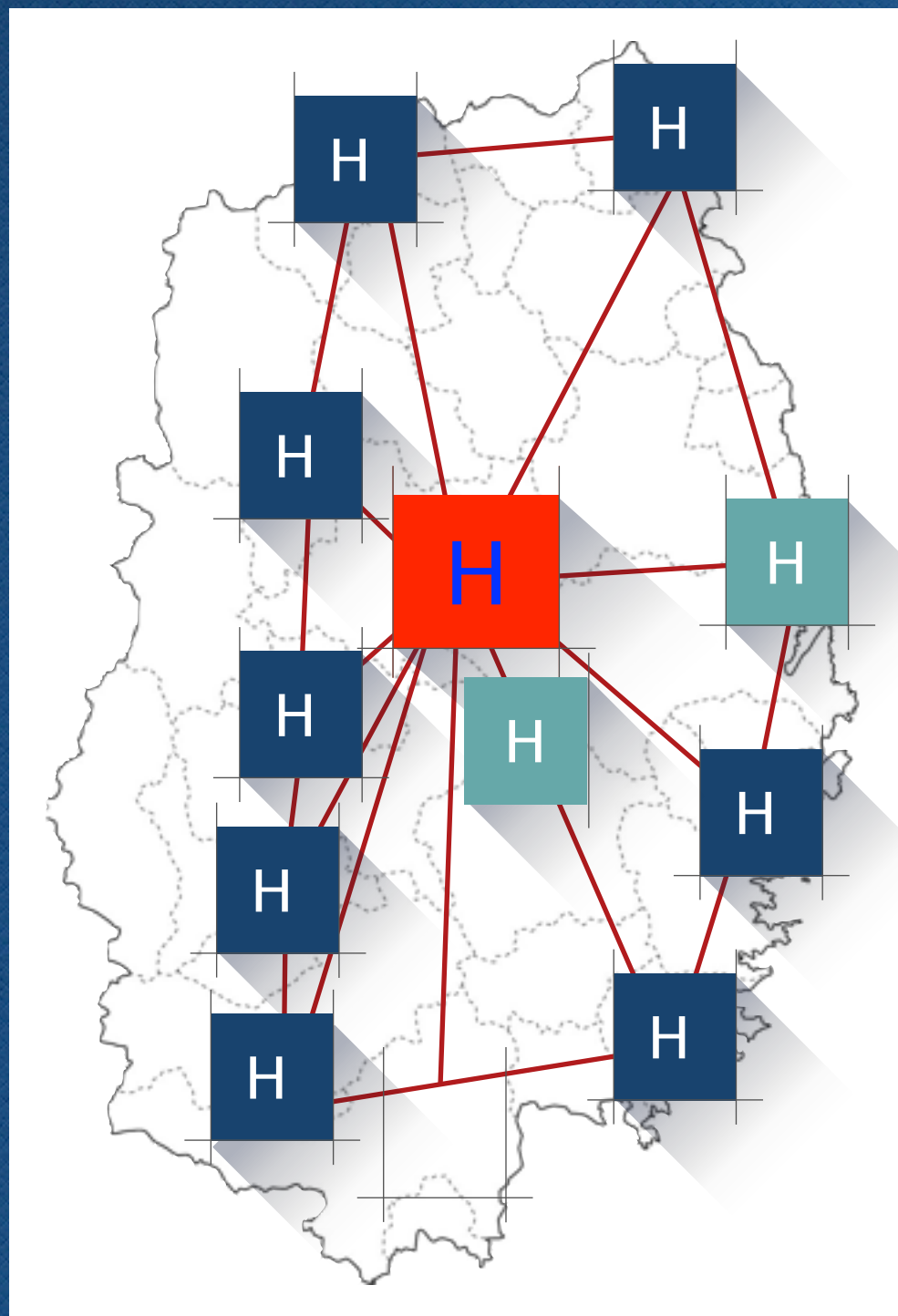
岩手県の人口※ : 1,303,351 人
人口密度※ : 85.30人/km² (46位)
人口10万人対医師数※※ : 193.7 (40位)

医療用麻薬の消費量(2011年)



出典(データソース): 平成23年モルヒネ・オキシコドン・フェンタニルの都道府県別人口千人あたりの消費量 (モルヒネ換算合計)(厚生労働省調べ)
出典(推計人口): 総務省統計局(2011年10月1日現在)
加工: 日本医療政策機構 がん政策情報センター

岩手県におけるがん診療連携拠点病院



- H 岩手医科大学附属病院
- H 岩手県立中央病院
- H 岩手県立磐井病院
- H 岩手県立胆沢病院
- H 岩手県立大船渡病院
- H 岩手県立中部病院
- H 岩手県立宮古病院
- H 岩手県立久慈病院
- H 岩手県立二戸病院
- H 岩手県立釜石病院
- H 盛岡赤十字病院

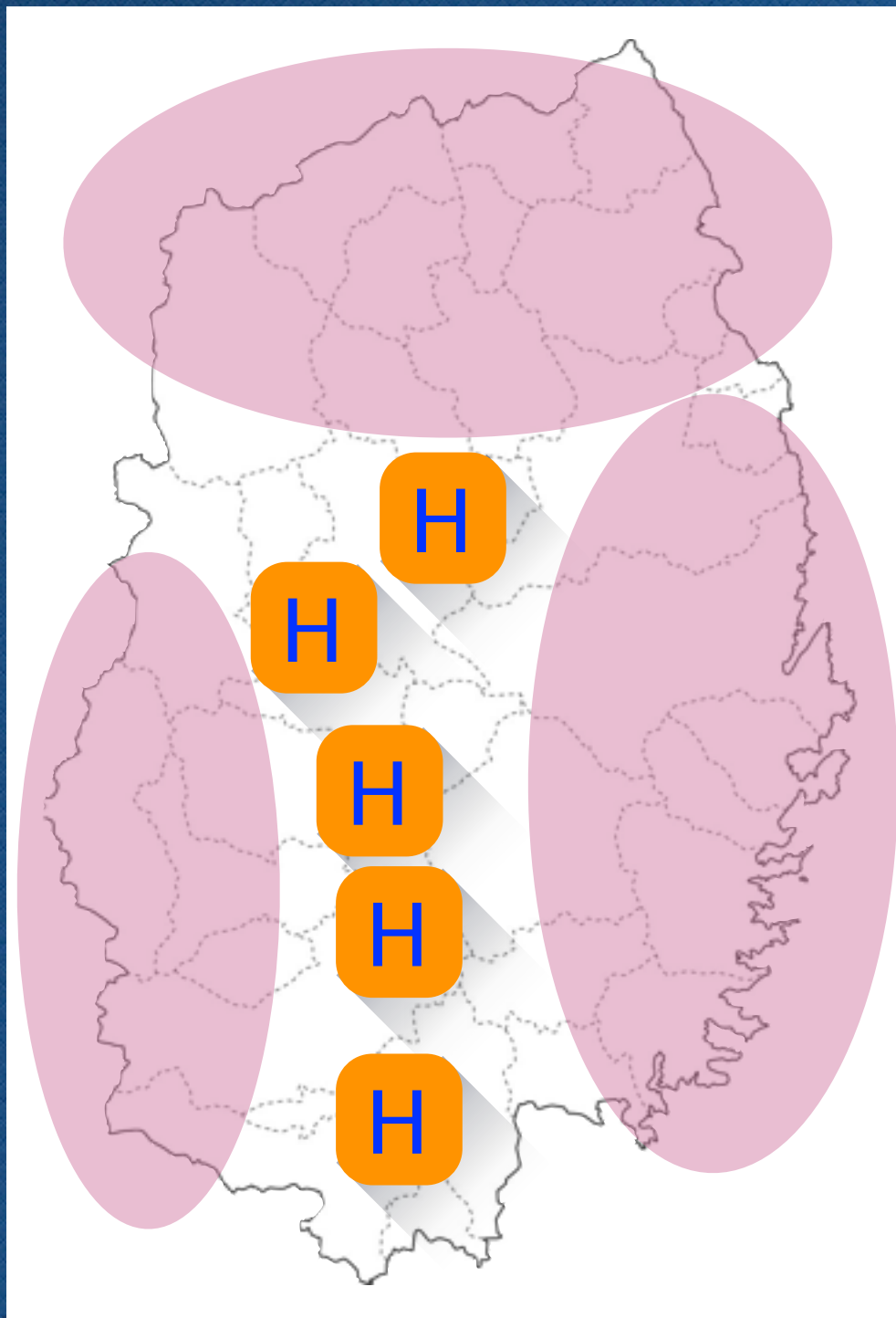
9医療圏

■ H 都道府県がん診療連携拠点病院

■ H 地域がん診療連携拠点病院

■ H がん診療連携拠点病院申請予定

岩手県における緩和ケア病棟

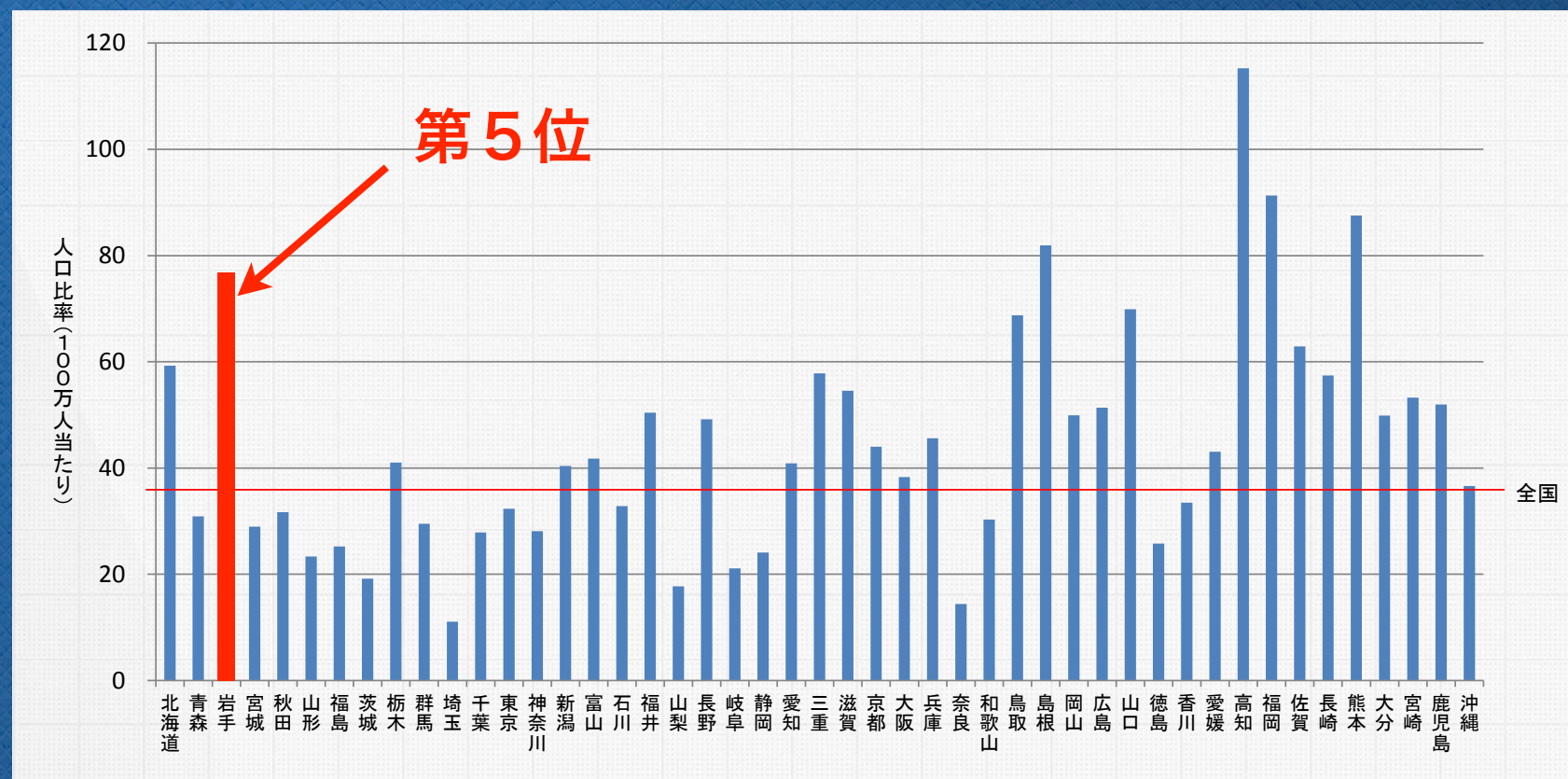


- 岩手県立磐井病院 (24床)
- 岩手県立中部病院 (24床)
- 盛岡赤十字病院 (22床)
- 孝仁病院 (10床)
- 美山病院 (20床)

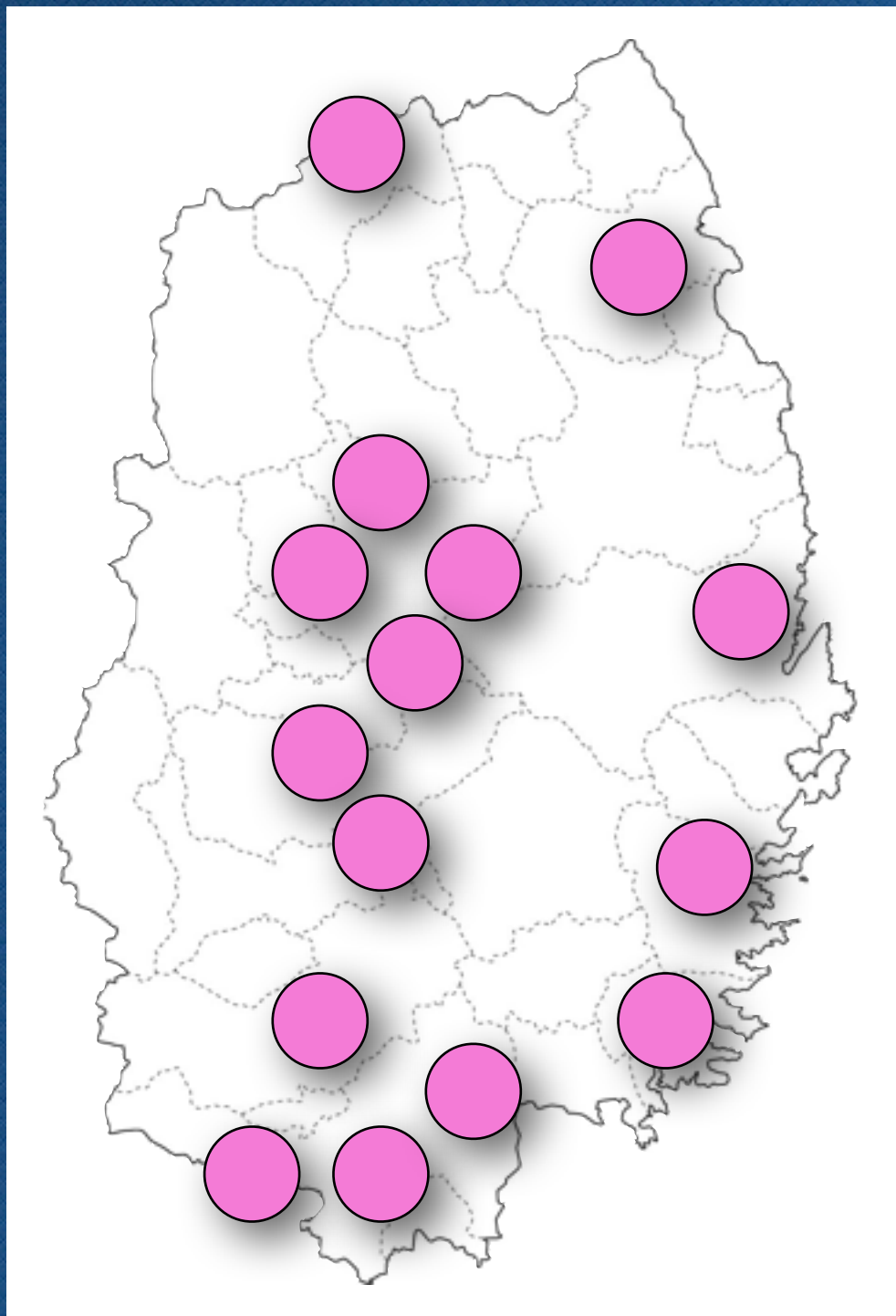
計 100床

 空白地域

ホスピス病床数(2012年)



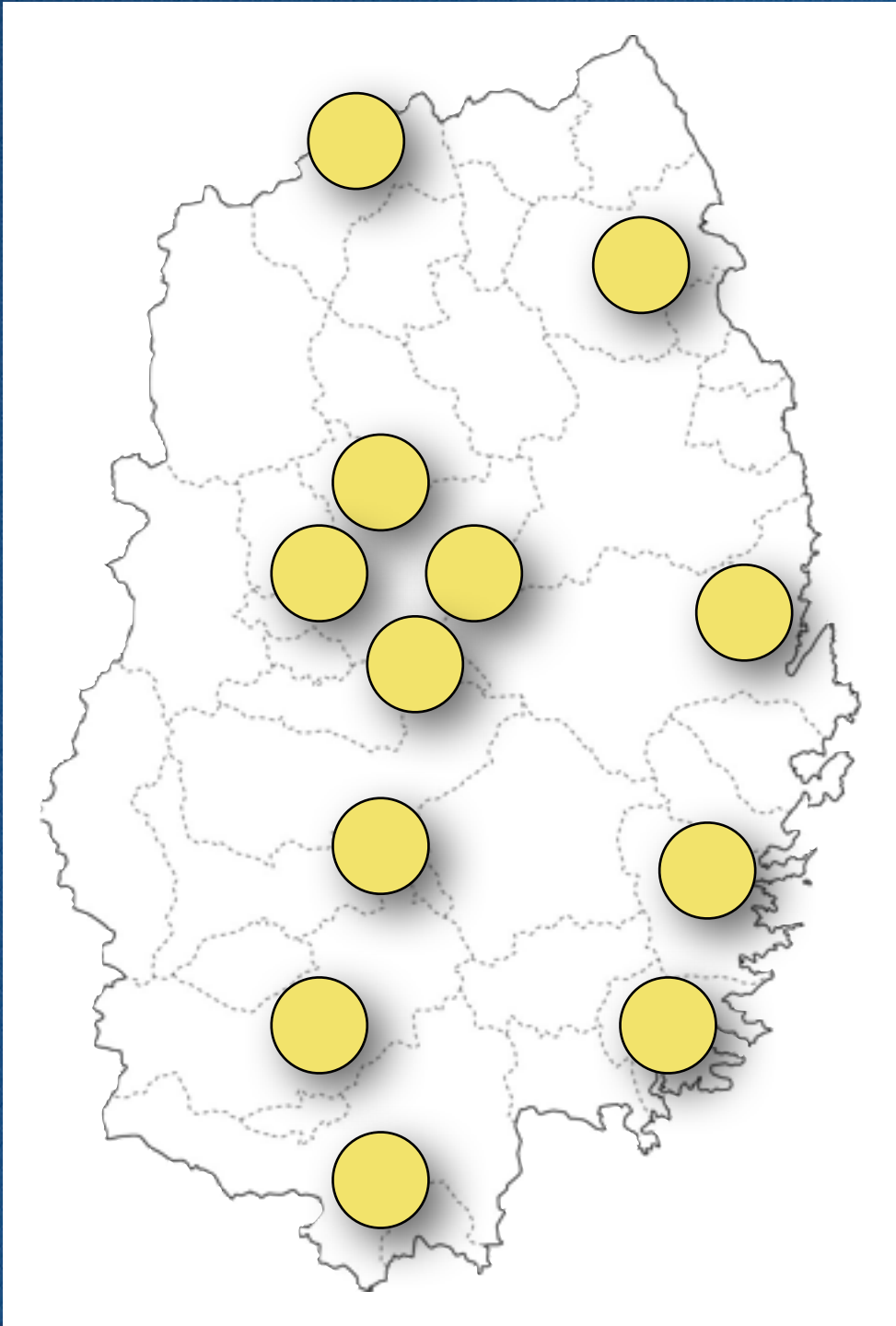
岩手県における緩和ケアチーム



- ・ 岩手医科大学附属病院
- ・ 岩手県立中央病院
- ・ 岩手県立磐井病院
- ・ 岩手県立胆沢病院
- ・ 岩手県立大船渡病院
- ・ 岩手県立中部病院
- ・ 岩手県立宮古病院
- ・ 岩手県立久慈病院
- ・ 岩手県立二戸病院
- ・ 岩手県立釜石病院
- ・ 岩手県立千厩病院
- ・ 盛岡赤十字病院
- ・ 盛岡友愛病院
- ・ 総合花巻病院
- ・ 一関病院

計 15施設

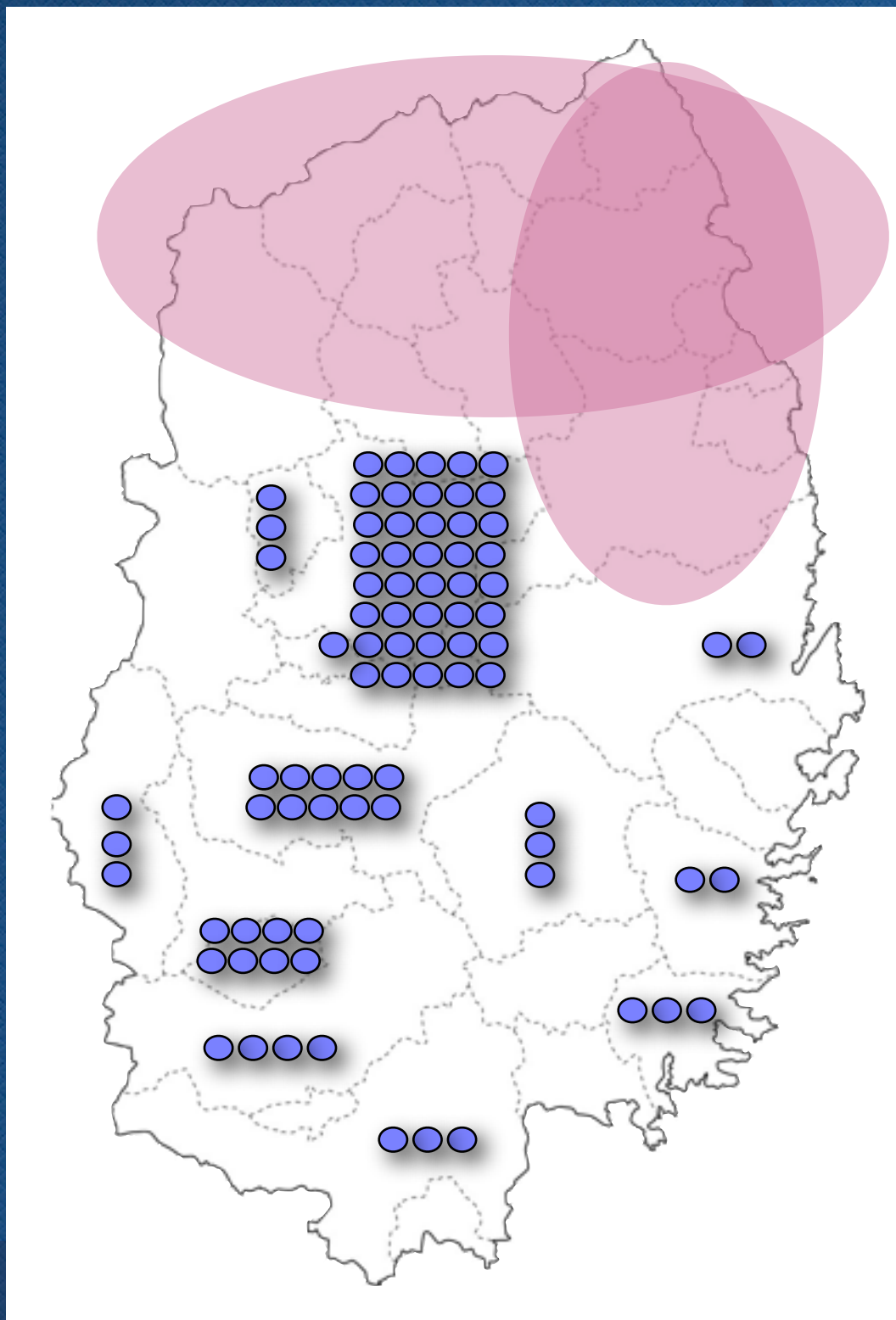
岩手県における緩和ケア外来



- ・ 岩手医科大学附属病院
- ・ 岩手県立中央病院
- ・ 岩手県立磐井病院
- ・ 岩手県立胆沢病院
- ・ 岩手県立大船渡病院
- ・ 岩手県立中部病院
- ・ 岩手県立宮古病院
- ・ 岩手県立久慈病院
- ・ 岩手県立二戸病院
- ・ 岩手県立釜石病院
- ・ 盛岡赤十字病院
- ・ 一関病院
- ・ 孝仁病院
- ・ 美山病院

計 14施設

岩手県における在宅支援診療所

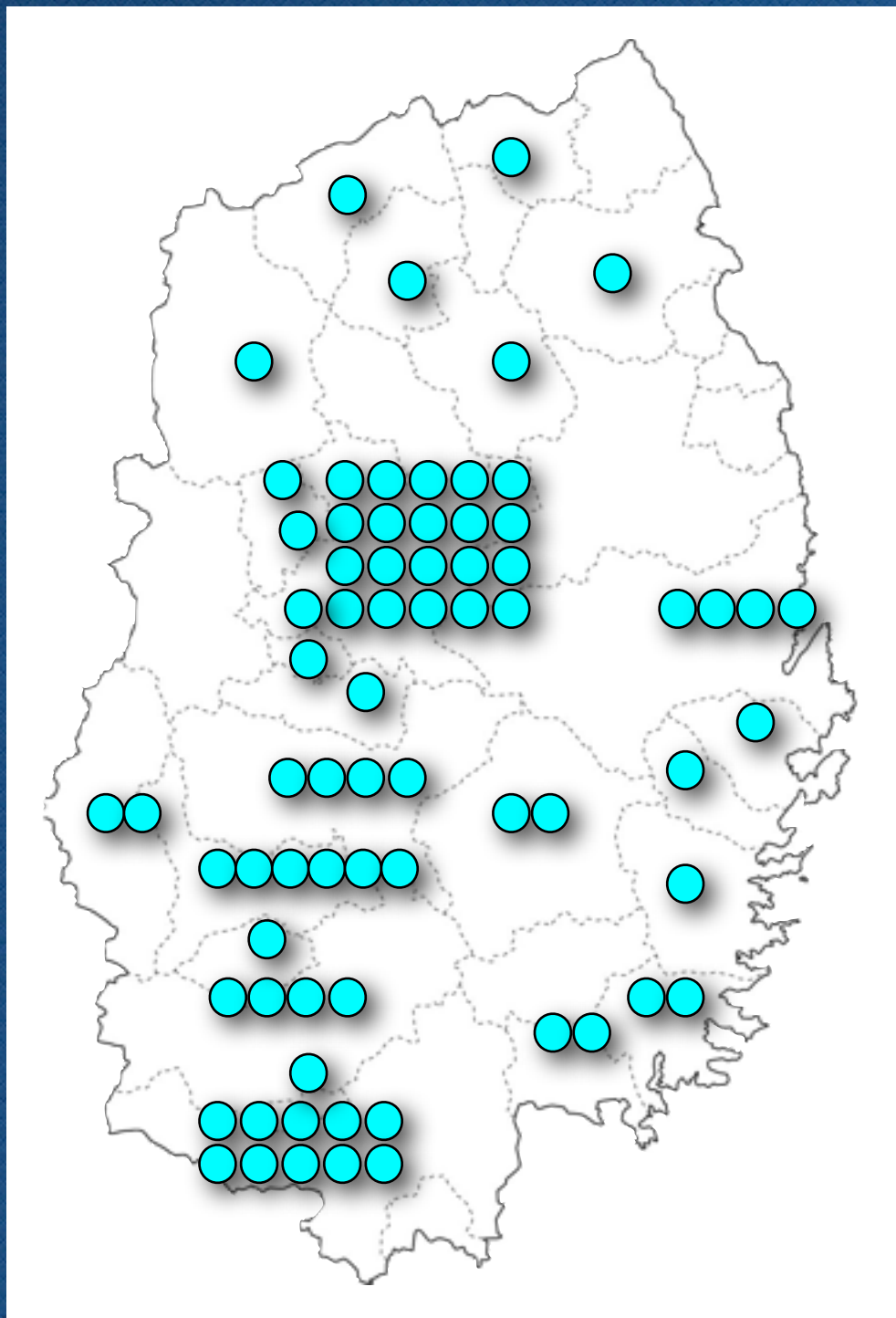


空白地域

平成24年1月現在

83施設

岩手県における訪問看護ステーション



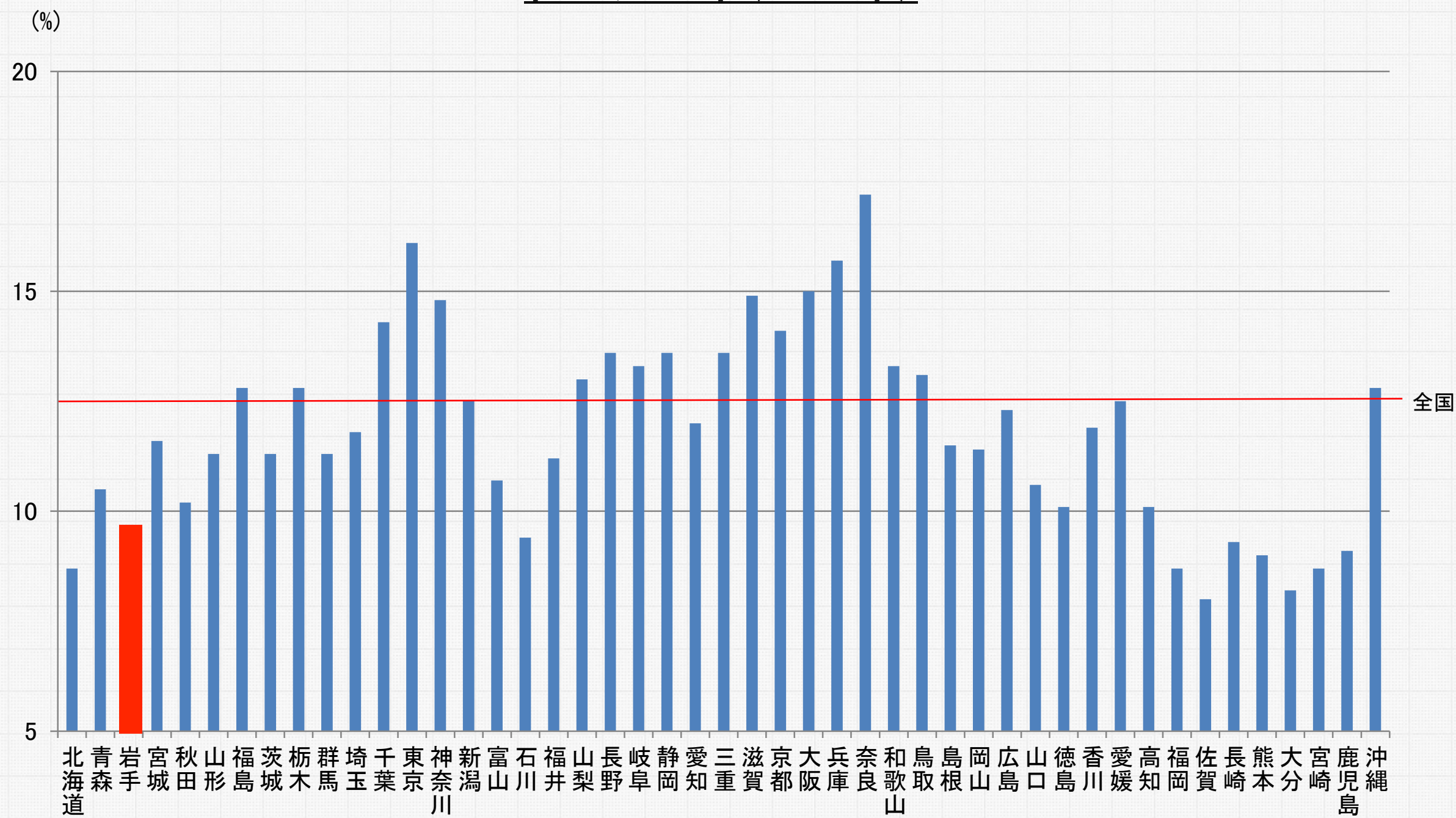
平成24年2月現在

72施設

人口10万人対 5.5施設

岩手県における在宅死亡率

在宅死亡率(2011年)



データソース : 人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)

加工 : 日本医療政策機構 がん政策情報センター



- 特定機能病院（総病床数：1051床）
- 都道府県がん診療連携拠点病院（H20年2月認定）
- 年間入院患者数：約15,000人
- 年間がん入院患者数：約 **4,500人**（全入院患者の約30%）
- 平均在院日数：14.9日（平成24年度）



診療



研究



教育

- 専任医師：9名
 - 消化器外科医：1名 → 症状緩和、医療連携、bypass, stoma, CV,
 - 消化器内科医：1名
 - 放射線科医：2名 → 緊急放射線照射、IVR（椎体形成）
 - 麻酔科：1名 → 神経ブロック、脊髄鎮痛法
 - 神経精神科医：2名 → 抑うつ、コミュニケーション
 - 歯科医：2名 → 口腔ケア、口腔リハビリ
- 専従看護師：2名（緩和ケア認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師）
- 専任薬剤師：2名（がん指導・専門薬剤師）
- 臨床心理士：2名
- MSW：1名
- リハビリテーション：3名（口腔リハビリ、OT, PT）

岩手医科大学 緩和ケアチーム ミーティング



岩手県における『緩和ケア医師研修事業』（第1期）

概要

1.事業期間：平成20年～24年度（5年間）

2.対象者*：医師、（歯科医師等）

* 事業開始当初、医師、歯科医師の研修を優先。後に多職種参加の方針へ。

3.実施施設：がん診療連携拠点病院等

4.受講目標：600名**

5.研修内容：開催指針に準拠した、合計12時間の研修

6.その他：修了者には、厚生労働省健康局長および県知事の
修了証を交付***

*** 医師、歯科医師以外のメディカルスタッフには、県知事の修了証交付

岩手県における『緩和ケア医師研修事業』（第1期）

概要：受講予定者算出の根拠

＊＊ 目標受講者数の算出

：本県の医師総数**2569名**（H18年 医師・歯科医師調査から）

2,569名－**1,198名**（精神科単科＋医療用麻薬による治療のない医療機関医師）

= 1,371名（病院勤務 1,288人、診療所勤務 83名）

病院勤務 1,288人のうち、がん診療に従事している割合40%※ **515人**

診療所勤務 **83人**全員 → **515人**＋**83人** ≒ **600人**

※日本医師会調査資料より

岩手県における『緩和ケア医師研修事業』（第1期）

運営

1.平成19年10月10日-11日

：岩手県主催の緩和ケア指導医師研修会開催（PEACE projectに準拠）

＊指導者：秋田県 橋爪隆弘先生

- がん診療連携拠点病院申請予定病院の院長、副院長、緩和ケア担当医師：17名
- その他、県内において緩和ケアを実施している中核病院以外の医師：9名
- 緩和ケア認定看護師、がん性疼痛認定看護師、訪問看護認定看護師等：6名



このときのメンバーが、岩手県内すべての研修会において、主催責任者、講師、ファシリテーターを分担し支援。

岩手県における『緩和ケア医師研修事業』

運営

2. 緩和ケア研修会開催を予定する11施設が協議し、年間スケジュールを調整。

- 4月： 岩手医科大学附属病院
- 5月： 岩手県立二戸病院
- 6月： 岩手県立中央病院
- 7月： 岩手県立中部病院
- 8月： 岩手県立胆沢病院
- 9月： 岩手県立宮古病院
- 10月： 岩手県立釜石病院
- 10月： 岩手県立大船渡病院
- 11月： 盛岡赤十字病院
- 12月： 岩手県立磐井病院
- 2月： 岩手県立久慈病院

↓
県、病院のHPで広報

↓
参加人数が決定次第、講師、ファシリテーターを選定。

※専門科（精神科、放射線科、麻酔科など）は、開催施設の求めに応じて、岩手医科大学附属病院（都道府県がん診療連携拠点病院）から派遣。

岩手県における『緩和ケア医師研修事業』

運営

3. 緩和ケア医師研修会の進め方

- PEACE projectのプログラムに準拠（時間、資料）
- 講師陣はほぼ一定。各プログラムを持ち回りで講義。
- 研修会開催前に、受講者の背景、講義、WSの進行方法を確認。
- 各認定看護師、専門看護師は、医師とともにWSのファシリテーターを担当。
- 研修会終了後に、全体を通しての反省会を行い終了。



岩手県における『緩和ケア医師研修事業』

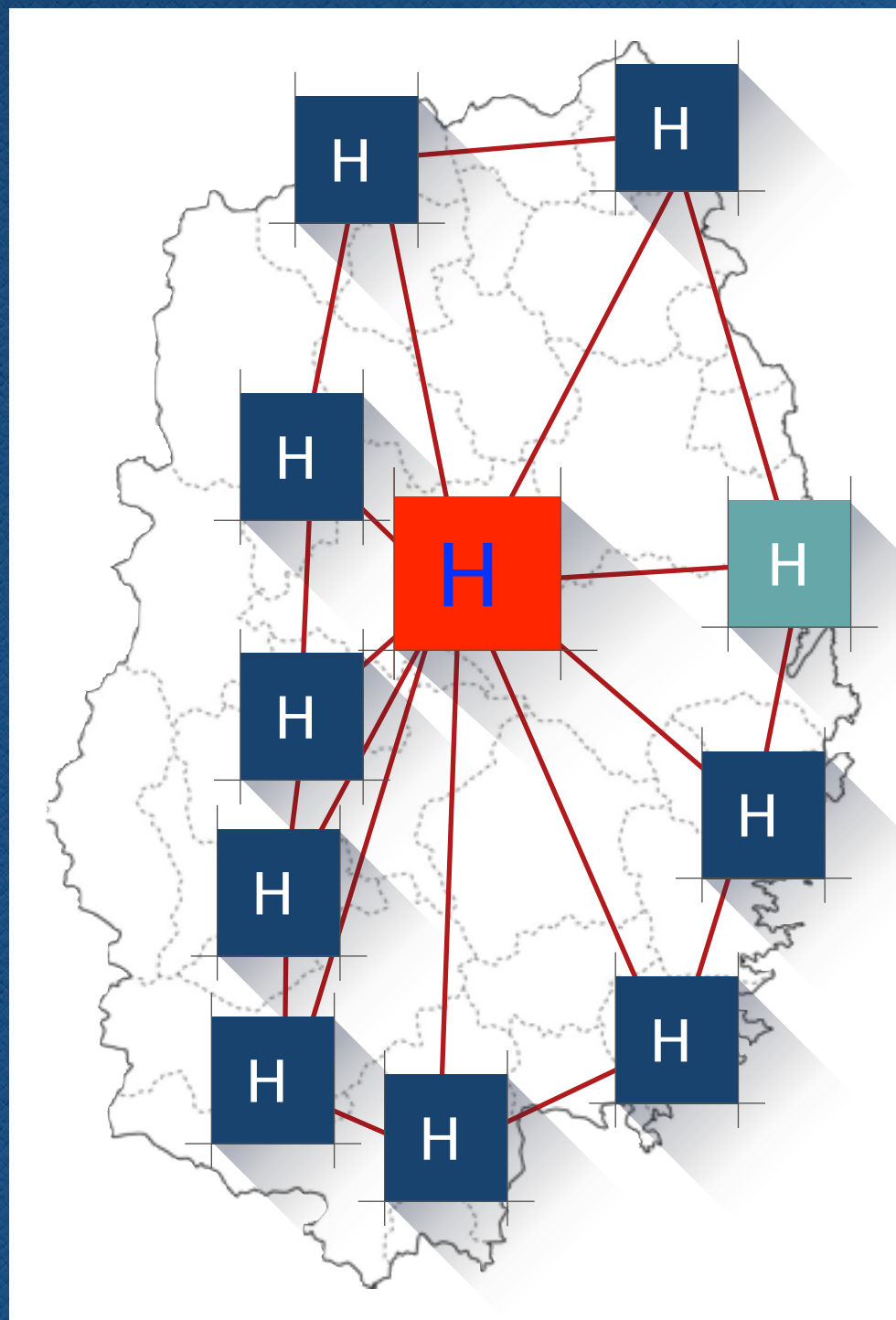
運営

4. 緩和ケア医師研修ファシリテーター養成研修会（意見交換、懇親の場）開催。

- * 県主催で、年度末に開催。
- * 各施設の主催責任者、講師、ファシリテーターとの意見交換、および新たなファシリテーター希望者、候補者との交流会
- * 講義の進め方、WSの進め方、効果的なトリガービデオの紹介など。
- * 他都道府県の開催状況報告、フォローアップ研修会参加報告など。
- * 次年度の年度計画の策定。
- * 指導医講習会参加者の推薦。

岩手県における緩和ケア連携の強化を目指して

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス（2008年8月～）



● テレビカンファレンス会場（11会場）

岩手医科大学（都道府県がん診療連携拠点病院）

2次医療圏（10施設）（※地域がん診療連携拠点病院）

- ※県立中央病院、※県立磐井病院、※県立胆沢病院、
- ※県立大船渡病院、※県立中部病院、県立釜石病院、
- ※県立宮古病院、※県立久慈病院、県立千厩病院、
- ※県立二戸病院

● 参加者

各会場の勤務者、各会場近隣の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション、訪問介護事業所等に勤務されている総ての職種。



都道府県がん診療連携拠点病院

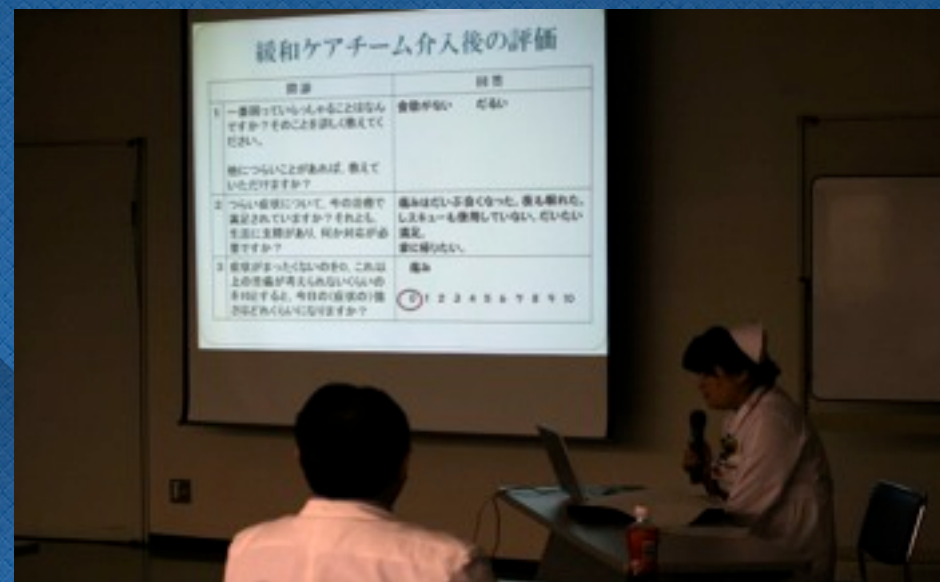


地域がん診療連携拠点病院



がん診療連携拠点病院申請予定

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス (2008年8月～)



岩手県緩和ケアテレビカンファレンス（2008年8月～）



岩手県緩和ケアテレビカンファレンス（2008年8月～）

- 第1回 : 『がん性疼痛に対応する』
- 第2回 : 『「生活のしやすさに関する質問票」を使用して』
- 第3回 : 『オピオイド導入時の薬剤師のかかわり』
- 第4回 : 『腹部症状（疼痛・嘔気等）への対応』
- 第5回 : 『気持ちのつらさに寄り添う』
- 第6回 : 『残存・増強した痛みの治療』
- 第7回 : 『「悪い知らせ」を伝えられた後の適応反応に付き添う』
- 第8回 : 『呼吸困難への対応』
- 第9回 : 『倦怠感への対応』
- 第10回 : 『療養場所の選択 在宅移行への対応』
- 第11回 : 『在宅緩和ケアへの移行』
- 第12回 : 『身体と気持ちと生活の痛みを持った患者への評価とケア』

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス（2008年8月～）

- 第13回 : 『真実を伝える患者の希望・家族の希望が異なっている時』
- 第14回 : 『緩和ケアテレビカンファレンス 平成21年のまとめ』
- 第15回 : 『社会的苦痛に対する緩和ケアチームのMSWの関わり』
- 第16回 : 『緩和ケアにおける口腔ケア・マネイジメント』
- 第17回 : 『身体と気持ちと生活の痛みを持った患者への評価とケア』
- 第18回 : 『がん患者さんの心の動きとコミュニケーション』
- 第19回 : 『ふるさとで最後の時期を過ごせますか？』
- 第20回 : 『緩和ケア病棟におけるリハビリテーション』
- 第21回 : 『訪問看護師のジレンマ』
- 第22回 : 『急性期病院と在宅緩和ケアとの連携』
- 第23回 : 『早期からの緩和ケアを目指すには』
- 第24回 : 『未告知患者の緩和ケアについて』

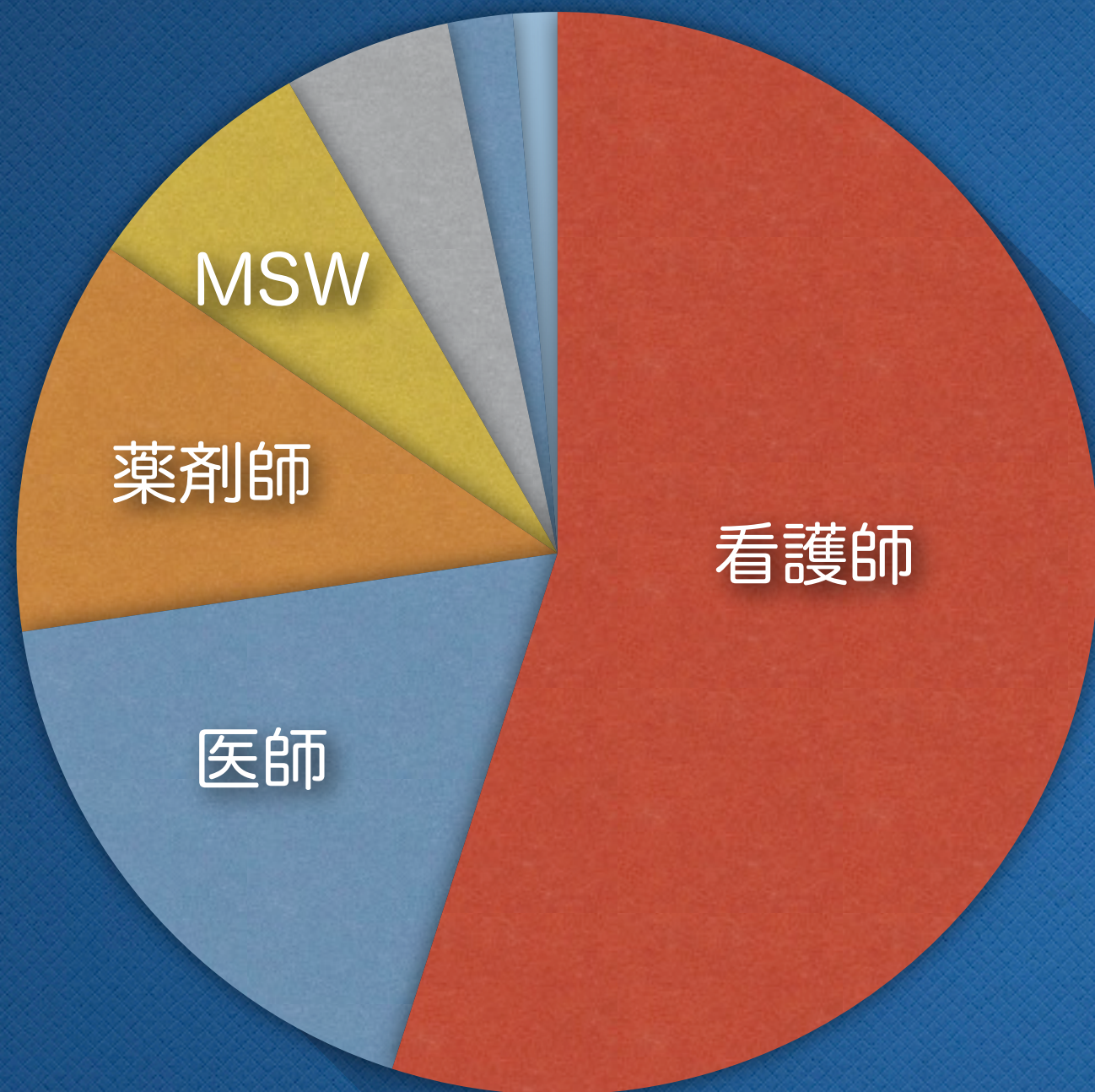
岩手県緩和ケアテレビカンファレンス (2008年8月～)

- 第25回 : 『「一人の人間」としての患者情報共有を良好にするためには?』
- 第26回 : 『がんリハビリテーションを通じた、終末期がん患者への関わり』
- 第27回 : 『「苦しくないように」との思いに添うために出来ること』
- 第28回 : 『一人暮らしの乳がん患者の自宅退院へのかかわり』
- 第29回 : 『食べたい気持ちを支える
～カツ丼の調理工夫を行い患者の希望をかなえた症例～』
- 第30回 : 『終末期がん患者の在宅療養への支援～病院と地域の連携～』
- 第31回 : 『気持ちが折れそうになった困難事例～痛みと心の揺れ～』
- 第32回 : 『急性期病院の緩和ケアチームが抱える問題について考える!』
- 第33回 : 『強い不安への対応に苦慮した頸椎転移四肢麻痺の一例』
- 第34回 : 『患者の嗜好を取り入れたケアの提供
-患者・家族の思いにどこまで応えられるか-』

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス（2008年8月～）

毎月第3月曜日、19時～20時

全49回の開催で、のべ6210名が参加した。



職種	%
看護師	53.9
医師	17.4
薬剤師	11.6
MSW	7.1
病院事務職	4.9
栄養士	1.9
理学療法士	1.3
介護士	0.5
臨床心理士	0.4
臨床検査士	0.3
保健師	0.2
放射線技師	0.1
歯科衛生士	0.2
その他	0.05
計	100

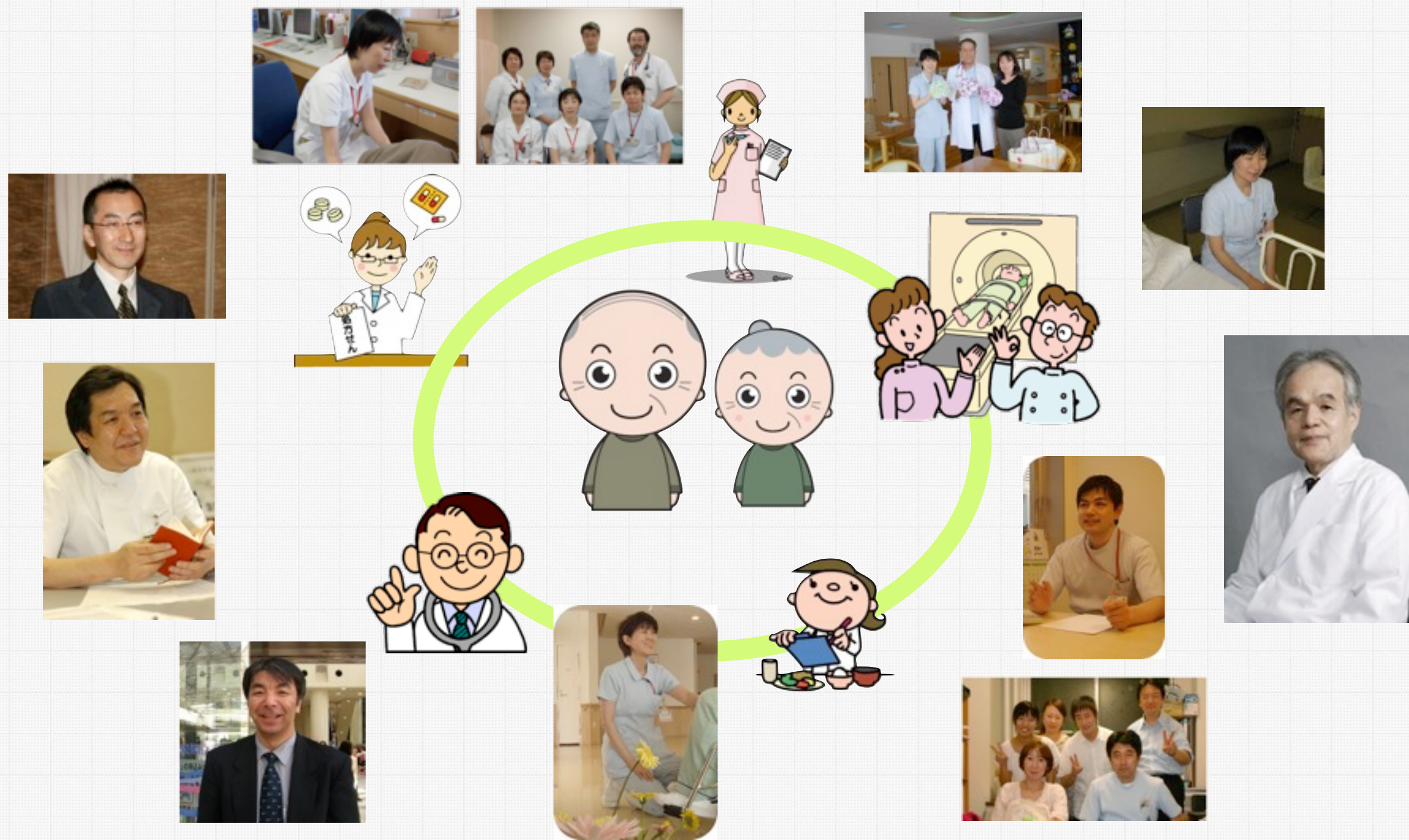
岩手県緩和ケアテレビカンファレンス（2008年8月～）

カンファレンスの目的は、

顔の見える連携

- ・各地域において、緩和ケアに取り組んでいる仲間を知る。
- ・各地域の医療状況を理解しあう。
- ・切れ目のない緩和ケアの提供を目指す。

緩和ケア Team IWATE





参加者 363名



実行委員会 “team IWATE”

岩手県 緩和ケア研修会実施状況 (H20年~24年)

圏域別	受講者人数 (A)	圏域別 受講者割合	拠点病院所属者の受講状況(B)		B/A (%)	圏域別 目標人数(C)	受講率 (A/C)
			拠点病院所属者	総数			
盛岡	261	38.3%	岩手医大	93	234	283.9	91.9%
			県立中央	109			
			盛岡日赤	32			
中部	91	13.4%	県立中部	60	80.9%	79.1	115.0%
胆江	56	8.2%	県立胆沢	35	75.6%	56.3	99.5%
両磐	68	10.0%	県立磐井	55	57.1%	48.2	141.1%
気仙	41	6.0%	県立大船渡	31	68.8%	28.2	145.4%
釜石	14	2.1%	県立釜石	8	78.3%	18.5	75.7%
宮古	32	4.7%	県立宮古	22	68.8%	26.1	122.6%
久慈	46	6.8%	県立久慈	36	78.3%	26.8	171.6%
二戸	65	9.5%	県立二戸	37	56.9%	31.0	209.7%
県外	7	1.0%			0	0	
計	681	100%		518	76.1%	≒600	113.9%

例えば久慈地域



- ・総面積は623.1 km²と、東京23区623.1 km²と一緒。
- ・人口：37,488人（平成24年）
- ・総合病院（がん診療連携拠点病院）：1箇所
- ・24時間態勢の訪問看護ステーション：0！

—久慈地域 緩和ケア研修会受講者（医師）の推移—

（受講率：171.6%）

H20	H21	H22	H23	H24	計
20	17	6	※	3	46

※震災により休止

他職種参加型として、受講者6名で開催

岩手県における緩和ケア研修会の現状 まとめ

- ・ 岩手県において、緩和ケア研修を円滑に遂行するため、緩和ケアに携わる医療従事者間の連携を、『face to face』および『ICT』により構築してきた。
- ・ 本活動が、岩手県における『切れ目のない緩和ケア』『顔の見える緩和ケア連携』を提供するための基盤整備に繋がっている。

今後の緩和ケア研修会に向けて

平成20年～平成24年までの5年間に、地域内の受講対象者が、ほぼ参加修了した地域が存在する。これらの地域に対する今後の対応が課題である。

-
- 1.多職種参加を前提とした研修会へと発展させる。
 - 各職種の専門性を尊重し、緩和ケアにおけるチーム医療に重点を置いたプログラムを作成する。
 - 2.複数の施設の共催を可能とする。
 - 一定の基準を満たした施設においては共催を認め、それぞれの施設にクレジットを与える。